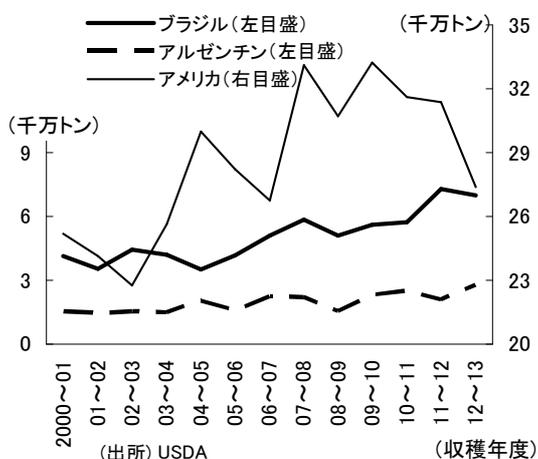


ブラジルに旱魃懸念

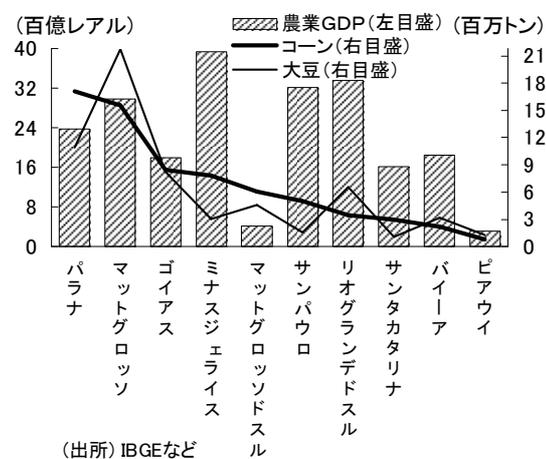
～ 一段の穀物価格上昇リスク ～

- (1) ハリケーン・アイザックで降水があったものの、コーンや大豆の世界的生産地であるアメリカ中西部の旱魃はこのところ一段と深刻化。しかし穀物市況は総じて高値安定。南半球、とりわけブラジルやアルゼンチンでの生産増期待が底流。2000年入り後の推移をみても、エタノール需要の盛り上がりを受けた07年度の増産や穀物価格の大幅下落に直撃された08年度の減産を除くと、総じてアメリカが増産になるとブラジルでは減産、逆にアメリカが不作だとブラジルでは増産の傾向（図表1）。穀物需給や価格変動がブラジル農家の生産意欲を左右。
- (2) しかし米農務省の8月予測によれば、12年度のアメリカは近年に例を見ない大幅なコーン減産に陥る見通し。ブラジルでは高水準の生産が続き、アルゼンチンは増産する見通しながら、世界のコーン需給逼迫は不可避。さらに12年度、ブラジルのコーン生産が高水準を続けられるか否か、不透明要素が浮上。すなわち生産地の旱魃リスク。
- (3) 同国コーン生産の中心はパラナ州をはじめとする南部とマットグロッソ州やゴイアス州などの中西部（図表2）。同国のコーン生産は年間2回。8月以降播種され翌年に収穫される夏作が総生産量の過半で、その中心は南部。まず降水量をみると、南部では4月に若干平年を下回るまで回復したものの、4月を除くと平年を大幅に下回る降水量（図表3）。南部で最も深刻な旱魃は最大のコーン生産地のパラナ州。南部に次いで重要なコーン生産エリアである中西部でも8月に入り降水不足が深刻化。一方、平均気温では8月に入って南部が急上昇（図表4）。コーン生産量がマットグロッソドスル州に次いで多いサンパウロ州など南東部でも8月、平年を1℃前後上回る気温上昇。現状は一部のエリアで播種が始まった初期段階。今後、好転の余地。もっとも同国の天候不順について市場は未消化。需給逼迫懸念の拡大を通じて価格上昇圧力が再び強まる展開が視野。

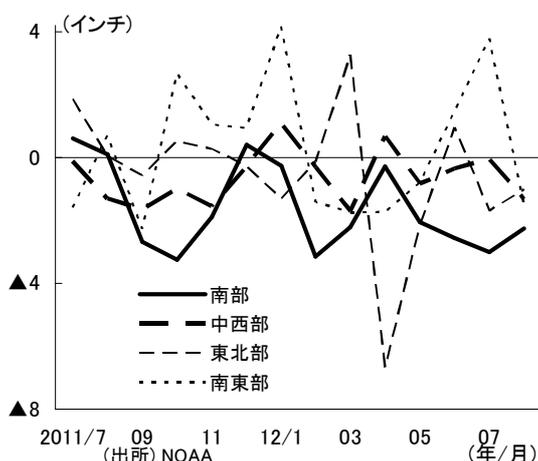
（図表1）主要国のコーン生産見通し（米農務省）



（図表2）ブラジル主要州のコーン・大豆生産と農業GDP



（図表3）ブラジルのエリア別降水量（平年差）



（図表4）ブラジル南部の平均気温

